

令和2年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)		技術を研ぎ、身体を鍛え、心を強くことをおして、優れた知性や創造性を身に付けた(まいい)か、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で豊か豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み			
評価項目		現状	目標(本年度の目指す姿)	目標達成のための方策	各分野の具体的な取組(中間評価)	経過・達成状況	評価
1 学力の向上	① 授業改善と学力の向上	【授業改革】 ◇学力向上研修会を予定どおり年2回実施。学力向上研修を活かしている職員の割合が38%に上昇 ◇アクティブラーナー活用研修を実施。アクティブラーナーに関する情報も随時提供した ◇授業アンケートを実施し、教科ごとに改善策を検討したが、生徒の授業満足度は70.4%に留まる 【学力の育成】 ◇進学補習(放課後補習、個別指導)、資格検定対策補習、数学・専門科目の基礎力向上補習を実施 ◇基礎力診断テストのDラインの生徒の割合は4月に比べて減少したが、「全体の40%以下」の目標は未達成 【学習環境の整備】 ◇全学年とも、落ち着いた授業に臨む姿勢がみられた	【授業改革】 ◇職員研修を活かし、「主体的・対話的で深い学び」を実践する職員が増加 ◇他校の授業あるいはアクティブラーナーの視聴を、自らの授業実践に活かすことができる ◇能動的に学習することができる生徒の増加(生徒の授業満足度が75%以上) 【学力の育成】 ◇基礎力診断テストを活用し、自らの学びを振り返ることができる生徒 ◇数学力を利し、専門教育に対応することができる生徒 【学習環境の整備】 ◇「整理・整頓・清掃」を実践し、自ら学習環境を整えることができる生徒	【授業改革】 ◇学力向上職員研修(年2回)及び、ICT活用研修の実施 ◇アクティブラーナーの利用推進に向けての情報提供及び、「一人一授業公開」の実施 ◇授業評価アンケートを実施し、振り返り及び改善に活用 【学力の育成】 ◇低学力層の生徒に対する個別面談・指導の実施(基礎学力充実補習) ◇進学および基礎学力向上・定着のための数学補習の実施 【学習環境の整備】 ◇「5・S・あさひ」の励行による、教室整備と授業規律の確立			
	② 主体的な学習態度と実践力の育成	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間の増加 R1第2回93分/日(H30:83分/日) ◇授業規律を保つよう毅然とした態度で授業に取り組むことができ、学力向上につなげることができた ◇アクティブラーニングを取り入れた授業を日常的に意識し、主体的な学習となる場を意図的につづいた	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間の確保(目標とする学習時間:100分) ◇現状ある授業展開、場に応じた速やかな動作・集団行動のできる生徒 ◇基礎学力を身につけ、進路を意識し、主体的に学習に取り組むことのできる生徒	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅で学習時間に向けて各教科で検討し取り組み ◇授業規律を具体的に周知するとともに各行事や学年集会等で集団行動の動きを身につける ◇基礎力診断テストを通して学力を把握し、D3の生徒の補習を行うとともに、進路意識の高揚をはかる			
2 豊かな人間性の育成	① 社会規範を重んじる態度と社会性・国際性・リーダーシップの育成	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHRの事前事後研修を行い情報交換をおこなった ◇生徒情報の把握に努め、各学年、他分野、スクールカウンセラー、家庭等との連携をはかった ◇性に関する指導講演会やLHRを通して、他者を尊重するとともに、性への自立・共生ははかれた 【ハイパー・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ◇hyper-Qアンケートと職員研修会を実施した ◇いじめ等に関するアンケート(3回目)を実施し、問題の早期発見・対応に努めた 【指導力向上の職員研修】 ◇校内外の人権教育関係の研修への参加を呼びかけた(一人一研修、2月未100%) ◇校内人権教育研修会(職員向け)を9月に実施	【人権教育・性に関する指導】 ◇生徒の人権意識の高揚と、他者の人権や存在の尊重 ◇生徒の意思に合った支援方法により、特別支援を要する生徒の安心した学校生活の確立 【ハイパー・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ◇自己理解と集団規律の順守 ◇いじめの無い学校生活 ◇学校が楽しいと思えるとともに、悩みが相談しやすい雰囲気への確立 【指導力向上の職員研修】 ◇職員の自主的な研修として「一人一研修」の参加100% ◇研修成果を教科やLHR等に還元	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHR・性教育LHRの実施 ◇特別支援計画を早期策定し、その支援に特別支援教育支援員を活用する 【ハイパー・Q・U、いじめアンケート等の活用】 ◇1・2年生2回、3年1回のハイパー・Q・Uを実施し、その都度データの読み取りや活用についての職員研修を行う ◇いじめアンケート、生徒会伝言BOX、相談室等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等、関係分掌と情報を共有 ◇外部関係機関との連携 【指導力向上の職員研修】 ◇研修会や講演会の情報を発信し、研修会への参加を促進 ◇事前学習など人権教育LHRの指導案の協議			
	② 健全な心身と社会貢献精神の育成	【基本的生活習慣の確立】 ◇「5・S・あさひ」、あいさつ運動については、一定の効果をおいている ◇学年ノートへの記述が多く、早期発見・早期対応の措置に少し時間差があり、指導への時間がかかったことがあった ◇臨時全校集会を2回開催するなど落ち着いた状況でない状況であった 【ボランティア活動】 ◇あると手作りまつり等のイベントボランティアに積極的に参加し、171名の生徒が活動した 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動では昨年より多い150名以上の選手が中国大会や全国大会に出場した ◇各委員会の活動が定着した 【環境改善】 ◇廃棄物H28年度比5%減、電力はH28年度比1%減という目標をおいているが、1月で廃棄物2.9%増、電力2.3%減だった 【安全教育】 ◇各種安全教室を実施することができた。しかし、講演内容については今後の検討課題である ◇自転車事故12件	【基本的生活習慣の確立】 ◇規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ◇服装検査の不合格者の減少 ◇正しい制服の着こなしの定着 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の参加者がR元年度比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ◇各クラス役員活動と生徒会活動の活性化 ◇部活動において、R元年度の中国大会出場者数と同等比(全校生徒に対し)5人を持 【環境改善】 ◇環境LHR、環境講演会等による教職員、生徒への啓発 ◇H30年度比可燃ごみ排出量2%減、電力はH30年度比1%減を目指す 【安全教育】 ◇交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得	【基本的生活習慣の確立】 ◇日常的な髪型・服装指導 ◇服装検査の実施と継続的な事後指導 ◇問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の場を広報し奨励 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動における外部指導者の活用 【環境改善】 ◇毎月の達成状況を公開し、教職員、生徒への啓発を行う 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導の継続 ◇各種安全教室の実施(携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等)			
3 キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	【人材育成】 ◇教科の基本内容に関連した検定試験から、難易度の高い資格検定試験に多くの生徒がチャレンジした ◇現場体験学習(インターンシップや企業見学)を実施	【人材育成】 ◇年度末までに、一つ以上の資格・検定試験にチャレンジ ◇年度末までに、一つ以上の資格・検定試験に合格	【人材育成】 ◇資格、検定が進学に大きなプラスになることを認識させるとともに、各種大会への参加の啓発指導の継続 ◇生徒の資格取得状況の把握及び事前指導 ◇資格取得実績が伴う効果的な学習計画の立案と指導・支援の実施			
	② 職業意識の育成と進路指導の徹底	【職業意識の育成】 ◇インターンシップは2年生、企業見学は工業科全学年で実施 ◇応募前職場見学は就職希望者全員が参加。各科社会人講師による授業等を実施 ◇資格取得を奨励 【進路指導の徹底】 ◇改訂した「進路の手引き」を用いた進路LHRを展開 ◇5月の3年生進路ガイダンス、10月の1・2年生分野別進路ガイダンスは保護者にも案内 ◇1回目の就職試験合格率は目標の90%に届かず87%	【職業意識の育成】 ◇職業観、勤労意識の育成及び定着 ◇専門的な知識・技術の定着 【進路指導の徹底】 ◇キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で確立 ◇一回目の就職試験合格率90%以上 ◇新入試制度に対応した、希望する進学先への合格指導	【職業意識の育成】 ◇インターンシップ、各企業見学等の実施及び事前指導の徹底 ◇就職者は、夏季の就職ガイダンス、冬季の就職セミナー、社会人としての基礎教養講座に積極的に参加 【進路指導の徹底】 ◇とらひふるさとキャリア教育の全体計画に基づき、「キャリアパスポート」「進路の手引き」を活用し3年間を見通し、系統立てた進路指導を実施 ◇校内の進路行事には、保護者にも案内し、生徒と共に進路の検討機会を提供 ◇基礎力診断テストを含め外部模試の結果を担任、教科へフィードバック、効果的な指導を実施			
	③ 地域や企業等との連携強化	【人材育成】 ◇企業見学、インターンシップなどの各事業を予定通り実施 【情報発信】 ◇HPの更新も昨年に引き続き、増加傾向 ◇出前授業や中学校体験入学などの反応は良好 ◇学年によつては昨年以上に学年通信などを発行し、学校の見える化をはかっている 【地域との連携】 ◇桜ヶ丘グリーンゾーンの清掃活動を実施 ◇テックボランティアは例年通り7月と12月に実施 【PTA活動の推進】 ◇各事業ごとにHP、まちこみメールを発信し参加者の増加を促した ◇各事業の参加者はクラス減などの影響もあり概ね減少傾向 ◇昨年までの手話講演会を、手話だけでなく人権研修会として内容を広げた形で実施	【人材育成】 ◇企業、地域企業から求められる能力を取得 ◇生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【情報発信】 ◇「もてづくり」の体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ◇地域行事、地域と連携した貢献活動等への参加 【PTA活動の推進】 ◇保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ◇保護者、地域の方々の本校の生徒指導方針に則った生徒の見守り ◇保護者などが参加しやすい事業の計画	【人材育成】 ◇各事業ごとに事前・事後に継続指導を行い、生徒への進路意識を徹底 【情報発信】 ◇行事ごとにタイミングを考え、保護者への参加を促すHPやまちこみメールの継続活用 ◇参加可能な催事への出席、タイムリーな記事をHP等で情報発信 【地域との連携】 ◇津ノ井地域懇談会での積極的な意見交換、地域文化祭などへの参加 ◇テックボランティア等の継続実施 【PTA活動の推進】 ◇学校行事との連携を考慮したPTA活動を具体的に計画			
4 業務改善の取組	S S C S T R I C T の 実 現	◇定期的な執務室の清掃を実施 ◇共有フォルダを再構成し、業務の手帳書の作成を依頼したが次年度用のフォルダの構成が未完成なこともあり、不十分な状況 ◇顧問間での計画的な指導分担を実施し、時間外業務時間が短縮した 時間外勤務が80時間以上の職員3人(4月)⇒0人(3月)	◇5Sの実践により、業務場所や共有フォルダの整理・整備を行うとともに、QCストーリーに則って計画、見直し、次回に向けた修正を行い、業務内容の理解と実施のための時間を削減する ◇部活動における休業日、活動時間を設定し、時間外業務年間360時間月45時間以内に削減する ◇職員のR2年度の平均時間外業務時間はH29年度比25%削減をめざす	◇定期的な執務室の清掃の実施及び共有フォルダの使用ルールの設定、担当ごとの要項、または手順書を作成し、業務終了後には修正を行い共有フォルダに保存する ◇顧問間での計画的な指導分担の実施 ◇時間外業務時間を管理職が適宜職員にフィードバックする			

注) S S : 整理・整頓・清掃・清潔・整 あさひ : 挨拶・作法・人の話を聴く ハイバー・Q・Uアンケート : よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート デュアルシステム : 学校の授業と並行して企業で学習するシステム テックボランティア : 学生が専門技術を生かした地域へのボランティア活動 AL : アクティブラーニング QC : (品質管理)ストーリー : 問題解決の手順